

鐵鋼化學分析全書に就て

今般東大名譽教授工學博士倭國一先生監修の下に日本學術振興會第 19 小委員會編纂の鐵鋼化學分析全書上下二卷が日刊工業新聞社から出版されたことは誠に時機を得たものであり、製鐵鋼業および學界にとって誠によるこぼしい次第である。

學振第 19 小委員會は倭國一先生を委員長として發足しその第一分科會は鐵鋼の分析法の研究に當つているが多年にわたる實驗檢討の結果が集積して茲に本書の出版となつたのである。本委員會が分析法の審議に當つては先づある事項について多數の委員が實驗研究し、その結果をまとめて委員會にて検討しなお問題があればさらに實驗して訂正して行くのであつて、本書のどの頁も多數委員の非常な努力が注がれてなつたのであつて、本書は最も信頼し得る良書たるを疑わない。執筆者は 30 數名に上り皆本會の委員でありかつ各大學、研究所、各會社の權威者であつてそれぞれ専門中の専門事項を擔當され、執筆に當つては平易を旨とし、しかも必要な個處は十分詳細にその理論を説明し實施に當つては十分理解して實驗し得るように苦心の跡が窺われる。また内容については本書の序文にもあるように苟しくも製鐵鋼業に必要なものは全部網羅し、分析用器具および試薬に對する説明および注意から分析室の設計、試料の採取調製に至るまで詳細に記述し、また隨所に参考文献を擧げて研究の便を圖つている。特に各元素の迅速分析法は特筆すべきで、同委員會が永年研究検討して決定したものでこれを實施して益々その重要性が増して來た。

最近我製鐵鋼業に於て各種の計測器を設備し合理的操業の實施は一段の進歩を見これによつて能率を高め原單位を低下し品質の向上に大きな貢獻を爲しているが、その根本は全く迅速分析によつて時々刻々に變化する爐内反應を短時間に把握しそれによつて各種の計器により最も適切な處置をとることが出来るからである。又鐵鋼の清淨度や結晶粒度等も鋼質に及ぼす影響は大であるがこれ等の測定法も學振第 19 小委員會で審議決定したものである。

我國はいよいよ長い間の占領から解放されて獨立國として國際社會に復歸することが出来る。然し今後我國の前途は相當長期間のいばらの途を覺悟しなければならぬであろう。敗戦の結果土地を失い人口は逆に急増した我國は所詮工業を益々盛んにして行くより外に途は無い。而も出来るだけ優秀なものを低廉に作る方向に進んで行かねばならないことは申すまでもないであろう。それには製造過程を益々精確にして品質の揃つた一様な良品を作りその歩止を 100% までにも向上して行かなければならぬであろう。

本書の如き出版はその意義甚だ大なるものがあり、製鐵鋼業はもとより鐵鋼を取扱う工場會社においても又研究に従事する方々にも日常座右に推薦する次第である。發行所その他次の如し

B 5 上卷 350 頁 定價 700 圓
下卷 900 頁 " 1300 圓

發行所 日刊工業新聞社
東京都千代田區飯田町 電話九段 1171